

第2学年星組 レッツゴー2星バンド - 音色って何色? -

指導者 松井 見磨

題材目標

- 楽器の音色と演奏の仕方とのかかわりについて気付き、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて楽器を演奏する技能を身に付ける。
- 聴き取ったことと感じ取ったこととのかかわりについて考え、曲全体を味わって聴いたり、曲の気分にあった音色を工夫し、どのように表すかについて思いを持ったりしている。
- 打楽器の音色やリズムに興味を持ち、仲間と音を音楽にしていく過程を楽しもうとしている。

全9時間 (ビルドタイプ×スパイラル型)

子どもの姿と支え方

Challenge (第3時)

速度や音色の変化と、表している様子のかわりや面白さが体感できるように、ふさわしい楽器に導いたり、音に集中して合奏練習できる場を設定したりする。

Choice (第2時)

思いを持った音楽の実現に向けて、音そのものを感じ取らせるだけでなく、なぜそのような音になるのかなど、知覚したことと感受したことについて一緒に整理する。

出合い

第1時：心地よい音色って何だろう？

今の子どもの姿

本学級の子どもは、音楽との一体感を味わうことが大好きで、休み時間にもお気に入りの楽器で、いろいろな音を試したり仲間と合わせたりすることを楽しむ様子が見られる。前題材「音のせかいに耳をすまそう」では、身の回りにある多様な音に興味・関心を広げながら、その音のよさや面白さを感じ取り、自分の表現に生かそうとする姿や、仲間の音を大切に聴き味わう姿が見え始めた。

一見すると、音楽室にある打楽器に魅了され、思いのまま鳴らしているように見えるが、一方でその音色が自己主張の強い音と感じる子もいれば、加わって一緒にバッテリー奏を始める子どももいる。共に音を合わせて“音楽する”活動を積み重ねていくことで、楽器の音色と演奏の仕方とのかかわりについて気付き、無自覚の音の思いを持った音楽にしていく過程を楽しんでいくことを期待している。

「学びに向かう力」が涵養されている姿

思いを持った音楽をイメージしながら“音楽する”楽しさや手応えを感じたり、自分自身の音楽の世界を広げたりして、自ら音楽とかかわっていきこうとする姿。

Check (第1・9時)

新たな音楽とつながろうとする意識を高められるように、これまで積み重ねてきた“音の記憶”を見詰めたり、学びを自覚したりできるように音と共に振り返る。

Creativity (第7・8時)

伝えたい思いや、目指す音楽のイメージを共有しながら、曲想に合った表現を工夫できるように、その過程で生まれる新しい気付きや変容を丁寧に見取る。

Critical Thinking (第6時)

多様な考えや仲間の表現から、新たな気付きを実感したり、自分なりに価値付けた音楽を見詰め直したりできるように、思考・判断のよりどころとなる要素を「音色」に絞り、焦点化を図る。

Collaboration (第4～6時)

自分たちが表現したい音色や音の重なりを試したり、互いの思いや表現のよさを認め合ったりできるように、共につくりあげる楽しさや手応えを感じられる場面を創り出す。

題材構想の意義

本題材では、自分の楽器と仲間の楽器の音色を比べたり、音を重ねたりすることで新しい音色が生まれることを通して、子どもが音を合わせる楽しさを味わい、主体的に音楽とかかわろうとすることをねらいとしている。

合奏曲として選曲した「ぶっかりくじら」「汽車は走る」は、リズムや速度の変化から、自分が想像した音楽のイメージと演奏をつなげやすく、「こんな風に演奏したい」という思いを十分に引き出しながら表現できる曲である。鍵盤ハーモニカによる付点のリズムが特徴的な主旋律と、手の形を変えずに演奏することができる副次的な旋律を選択するだけでなく、息の強さによって音色を工夫しながら、仲間との音色の重なりを楽しむことができる。

音楽づくりでは、子どもにとって身近で音色の違いが聴き取りやすい打楽器を扱う。自らもったイメージを根拠に、仲間と多様な表現方法を試したり聴き合ったりしながら、楽器の音色のよさや面白さを感じてほしい。また、イメージの組み立て直しや、つくりかえていく意図的な活動を設定することで、さらなる音色への探究が始まると考えている。

自分たちの表現をつくりかえながら、没頭して“音楽する”、すなわち、子ども自身が音楽と向き合い、音を音楽にしていく過程こそ、楽しさや手応えとともに、より深く“音の記憶”として子ども自身に沁み込んでいくと考え、本題材を構成した。

音色って何色?

2星 虹色
クラクラコンサート
を成功させよう!

振り返り

第9時：コンサートを楽しもう。

第7・8時：プログラムを仕上げよう。

追究

第6時(本時)：どんな音色で伝えたいかな。

第4・5時：楽器の音の組合せを楽しもう。

第3時：どんな歌い方や吹き方が合うかな？

第2時：様子を音楽で表わそう。

本時の授業（6 / 9）

- 1 日時 令和6年11月28日(木) 10:30~11:15
 2 場所 第2音楽室
 3 目標 打楽器の音色の特徴を生かして、イメージに合う表現について思いを持つことができる。

本時における「学びに向かう力」が涵養されている姿

- イメージを根拠に試行錯誤し、音色のよさや面白さを感じながら、思いに合った表現をしようとする姿。
- 進んで音楽にかかわり、音楽づくりする楽しさや手応えを感じながら、仲間と音楽でつながろうとする姿。

学習活動	1 今月の歌を歌う。 (常時活動)	2 つなげたリズムを を演奏する。	3 イメージが伝わる 楽器の音色を探る。	4 本時の振り返り をする。	場面	題材の評価規準【●】	
予想される 子どもの 意識の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな歌声で歌おうかな。 ・声や手拍子がそろうと気持ちがいいね。 ・明るくはっきりとした音で、手拍子してみようかな。 ・友達とリズムを合わせてみたらどうなるだろう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> どんな音色で伝えたいかな？ </div>				出合い	<ul style="list-style-type: none"> ● 楽器の音色やリズムに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に取り組み、いろいろな打楽器に親しむ。 【主体的に学習に取り組む態度】
指導 (○) と 評価 (●)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の雰囲気をつくりながら、仲間の音を意識するように促す。 ○ 前時を振り返りながら、曲の気分を想像して表現する気持ちを高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽的な根拠を持って音色を工夫したり、共通の視点を持って試行錯誤したりできるように、条件を設定する。「音色」「強弱」 ○ イメージの組み立て直しや、作りかえていく意図的な場面を設定することで、音色を意識して表現したり、仲間とじっくり試し合ったりできるようにする。 Critical Thinking 	<ul style="list-style-type: none"> ・○○色のイメージは、柔らかい感じかな。 ・同じ色でも、感じ方が全然違うんだね。どんな音色にしようかな。 ・キラキラ輝いている感じの音を探してみよう。 ・始めに演奏した音楽が、音色の工夫で変身したよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出来上がってきた音楽を互いに聴き合うことにより、変容を確かめながら本時の振り返りにつなげる。 	追究	<ul style="list-style-type: none"> ● 打楽器の音の特徴について、それらが生み出す面白さなどかかわらせて気付いている。 【知識・技能】 ● 音色やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととのかかわりについて考え、曲の楽しさを見出している。 【思考・判断・表現】 	
		<ul style="list-style-type: none"> ● どのように音色を選んだりつなげたりして表現するかについて、思いを持つことができたか。 【様態・ワークシート】 			振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● 思いに合った表現をするために必要な音色に気を付けて、互いの楽器の音や伴奏を聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付けている。 【知識・技能】 ● 多様な考えや表現から、新たな感動や気づきを実感したり、これからの自分の音楽に生かそうとしたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 	